

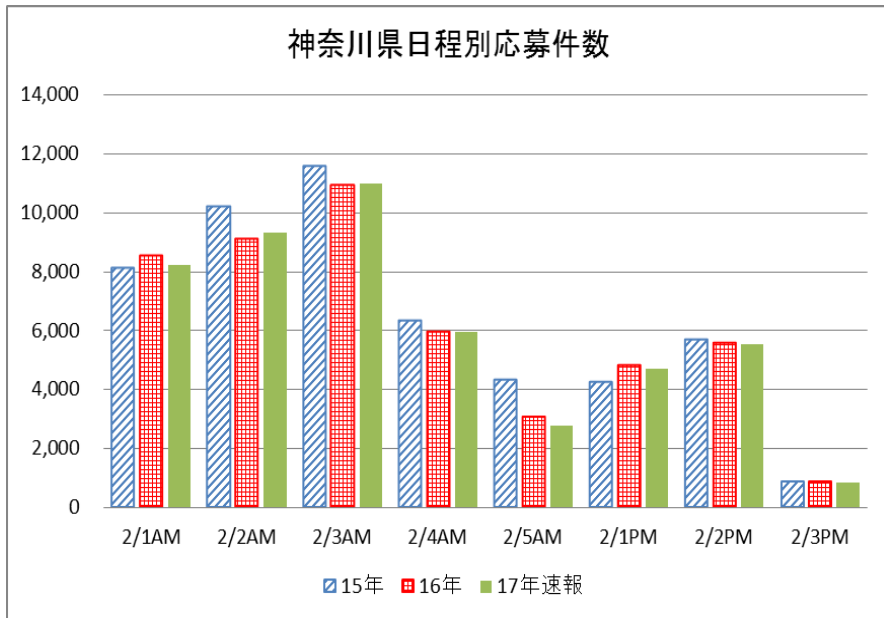
神奈川県私国立中入試概況

1. 概況 応募総数は減少、実受験者数は横ばい、受験生が東京に流れた？

神奈川県内の公立小6児童数は約75,700名で、昨年より約1,800名の減少です。2月15日現在の県内の中学入試の応募総数は、国立・私立・公立一貫校の合計で約50,900件となっていて、昨年の最終より約600件の減少です。応募者が入試結果未公表の学校や、二次募集実施校があり、今後応募者数はもう少し上乗せされますが、最終的に昨年の水準に届くのは難しいでしょう。今年はサイエンスフロンティアの開校があり、応募者数が増えることが期待されていましたが、私立の応募者数の減少

で、合計ではマイナスになりそうです。ただ、実際の受験者数は昨年並みに近い水準が見込まれます。これは、サイエンスフロンティアの開校に伴う増加分もありますが、私立の受験者数が、応募者の減少ほどは減っていないこと、言い換えれば、出願しておいて受験しない、いわゆる欠席率が下がったからです。私立は複数の学校や入試回次に出願が可能で、実際に受験するかどうか決まっていなくても、とりあえず出願しておくケースが多く、昨年の実績でも応募(出願)総数の3割近くは、実際には受験していません。今年は児童数の減少の中で受験者数はほぼ変わらないものの、「とりあえず」の出願が減って応募総数に反映しなかった結果でした。

上のグラフは今年の県内中学入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したもので、今年は速報値です。県内で実施される地方寮制校(早稲田系や日大系)の入試結果は含んでいません。全体的な傾向では2月3日午前が最多ですが、これは公立一貫校がすべて3日に集中しているからです。昨年との比較では2月1日午前が少し減って、2日午前は僅かですが増加、3日午前と4日午前は昨年並み、5日午前は少し



減っています。午後入試は1日午後が若干減、2日午後と3日午後はほぼ昨年並みです。入試日程はグラフの日程だけではありませんが、他の日程はかなり小規模です。ですから、今年の実験者減少の主要因は2月1日午前の減少です。

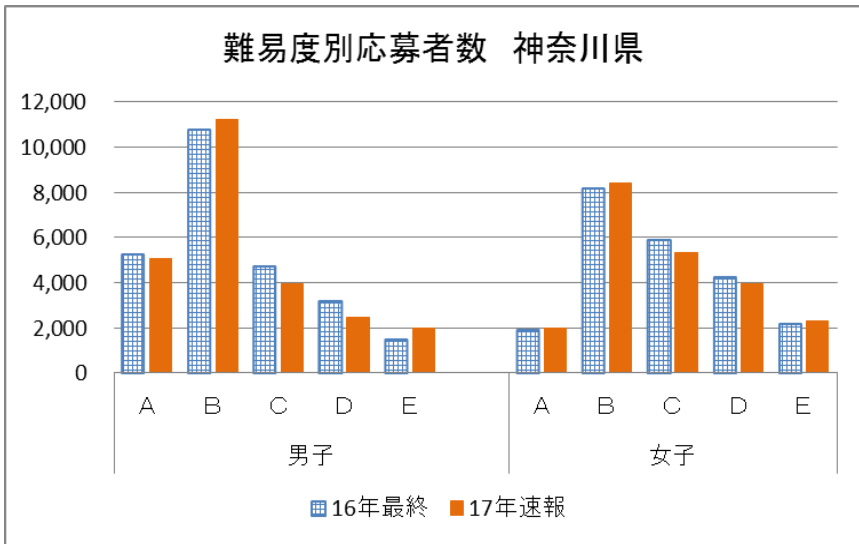
2月1日午前は、第一志望校に挑戦する受験生が多い日です。もちろん、県内では栄光学園や聖光学院1回、浅野、あるいは公立一貫校など、2日や3日の学校が第一志望の受験生も少なくないのですが、人数面では1日が第一志望の受験生が多数派です。その日程で応募者が減っている以上、東京、特に23区内の学校に流れる受験生が増えてきたのでしょうか。特に児童数が多い横浜、川崎、相模原の各市では、都内まで電車であり時間がかからない地域が多く、都県境を意識しないで受験生は動きます。県内各校よりも都内校、といった選択の受験生が増えたのでしょうか。

なお、一昨年から昨年は1日午前がかなり増えて、2日午前や3日午前は減っていますが、これは一昨年からサンデーショックで、昨年はその戻りがあったからです。サンデーショックはプロテスタント系女子校を中心に、日曜日と入試日程が重なると入試日程を動か

すことで 併願の関係が大きく変わって受験生の学校選びに大きな影響を与えるものです。グラフの変動はその結果として捉えてください。

次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。右のグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

まず全体的な傾向から。男女ともBグループの応募者が一番多いのですが、応募者数はかなり差があり、男子はBグループ集中傾向が目立っています。今年も応募者が増えています。昨年はBグループの次がAグループで、それより少し少ないのがCグループでしたが、今年はCグループの応募者が減って、差が大きくなっています。D、Eグループと、応募者が減っていきませんが、今年はEグループの応募者がやや増えていることが注目されます。Eグループの応募者数は昨年並みか減っている地域が多い中で、珍しいことです。ただ、難関・上位校の人气が高く、入り易くなるほど人气が下がっていくことには変わりはありません。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で神奈川県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浅野・栄光学園・慶應湘南藤沢・慶應普通部・聖光学院
・フェリス女学院・横浜共立学園・横浜雙葉
- B…鎌倉学園・鎌倉女学院・神奈川大附属・公文国際学園・サレジオ学院
・湘南白百合学園・逗子開成・洗足学園・中央大学附属横浜
・桐蔭学園(中等・理数)・日本女子大附属・日本大学・法政第二・山手学院
- C…青山学院横浜英和・カリタス女子・関東学院・自修館・湘南学園
・清泉女学院・桐光学園・日大藤沢・聖園女学院・森村学園
・横浜国大附属横浜
- D…神奈川学園・聖セシリア女子・捜真女学校・鶴見大附属(難関)
・桐蔭学園(男子部在来・女子部普通)・東海大付属相模・藤嶺学園藤沢
・横須賀学院・横浜国大附属鎌倉・横浜女学院
- E…アレセア湘南・大西学園・鎌倉女子大学・関東学院六浦
・函嶺白百合学園・北鎌倉女子・相模女子大学・聖ヨゼフ学園・聖和学院
・相洋・橘学苑・鶴見大附属(進学)・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜翠陵
・横浜創英・横浜隼人・横浜富士見丘

女子はBグループを筆頭に、C・D・Eグループと、入り易くなるにつれて応募者が減っています。やはり上位校志向は高いのですが、男子よりもBグループの応募者が少ないこと、難関校のAグループの応募者がEグループよりやや少なく、中堅校の人气が高いことがわかります。Bグループは若干ですが、昨年より応募者が増えているものの、C・Dグループは少しずつ減っていて、中堅校人気にもやや陰りが出ているようです。

以下、各地域別に入試状況を見ていきます。なお、相模原中等、平塚中等、市立南高校附属、市立横浜サイエンスフロンティア高校附属、市立川崎高校附属については、公立一貫校の概況をご覧ください。

2. 川崎・横浜地区

<男子校>

聖光学院は、以前は後述の栄光学園との間で受験生の流出入が毎年見られましたが、最近2~3年は安定してきました。しかし今年再びこの現象が見られ、栄光学園に受験生が流れたようです。2月2日の1回はやや応募者が減り、その影響で4日の2回も少し減っています。合格最低点は1回がやや上がっていて、受験生の学力層はむしろ少し上がったようです。帰国と2回は昨年並みでした。浅野は昨年まで応募者が少しずつ減っていて、昨年は増加しましたが、今年は再び少し減りました。2月3日の入試ですから、1日午前などで合格を決めた受験生が3日まで挑戦しなくなっていることが考えられますが、合格最低点は昨年並みですから、受験生が絞られて無理な挑戦を試みようとしなくなっている影響でしょう。身の丈志向です。

サレジオ学院も昨年は2月1日のA入試、4日のB入試とも応募者がやや増えましたが、今年は昨年とほとんど同じで、実際の受験者数は若干増えています。Aは合格最低点が少し上がって、やや難化したようです。Bは昨年並みで難度に変化は見られません。慶應普通部は、昨年は応募者が増えていましたが今年は少し減っています。一昨年とほぼ同じ応募者数で、このところ隔年現象での増減が続いています。今年も補欠が出ていますので、難度は昨年並みでしょう。

横浜は一昨年、県内私立中学では初めて公立一貫型適性検査入試を実施しています。昨年はその公立一貫型入試の日程を動かして応募者が減ってしまいましたが、今年も昨年とあまり変わらない応募者数で、実際の受験者数も昨年よりやや減った結果でした。小規模な入試になっています。なお、同校は2020年から高校募集を共学化すると発表していますが、中高一貫コースは男子のみのまま残すということです。武相は一昨年4科入試をとりやめて小規模な入試になっています。今年も同じ状況でした。

<女子校>

まず横浜市内から。昨年は2月1日の神奈川女子御三家の3校、フェリス、横浜雙葉、横浜共立のA入試は、3校とも応募者が減っていました。サンデーショックの戻りの影響です。今年はフェリスの応募者が小幅ながらさらに減っています。東京の御三家各校や早稲田実業などの共学校を選ぶ受験生が増えてきたようです。ただ、小幅ですから入り易くなるようなことはなく、難度面では昨年並みだったようです。横浜雙葉は昨年並みの応募者数で、合格最低点は昨年並み、難度に変化は見られません。安定しています。横浜共立のA入試は応募者がかなり増えていて、人気が上がっています。倍率もかなり上がっていますが、合格最低点は昨年並みで、難度面ではあまり変わっていません。このレベルの学校にしては珍しい2教科入試の同校B入試(2月3日)もA入試ほどではありませんが、応募者が少し増えています。こちらも合格最低点は昨年並みで、難化はしていないようです。

一昨年、青山学院の系属化を発表して爆発的に応募者が増えた青山学院横浜英和(この4月から改称、旧横浜英和)は、2月1日午後の入試を廃止して3回入試としました。一昨年は各回合計で1,600名を超える応募者数の人気で、昨年もやや減ったものの1,500名を超える応募者数でしたが、1日午後を廃止したため、応募者は大きく減りました。それでも各回合計で1,000名は超えています。実際の受験者数も減って、志望順位が高い受験生が集まる1日午前や2日午後の2科は、少し合格最低点が下がっていますが、以前よりも出題の難度が少し上がっていることから、入り易くなったとは言えません。他の入試も含め、難度は少なくとも昨年並みで、以前よりは難化していると考えてください。なお、同校は次年度、2018年度からは共学化の予定です。

神奈川学園は、昨年は各回合計の応募者数がやや減っていましたが、今年は厳密には微増、概ね昨年並みの応募者数です。しかし欠席率が下がったため、実際の受験者数は増えています。合格最低点も1日午前のAが小幅ですが上がっていて、若干難化したようです。他の回は昨年並みで難度に変化は見られません。横浜女学院は2月1日午前、3日午前、4日午前入試で英語選択を実施しました。グローバル化対応です。昨年は一昨年よりも各回合計の応募者数が少し減っていま

したが、今年は昨年並みです。しかし、欠席率が少し下がっていて、実際の受験者数はやや増えました。合格最低点は1日午前のAがやや下がっていますが、出題内容による変動でしょう。特に入り易くなった印象はありません。他の回は昨年並みで、難度に変化は見られません。

捜真は、以前は日曜日の入試を避けるプロテスタント校でしたが、一昨年は方針を転換して日曜日にも入試を行うようになりましたので、昨年はサンデーショックの戻りの影響は以前よりも小さくなっています。昨年は各回合計の応募者数がやや増えたものの、実際の受験者数は一昨年並みでしたが、今年は応募者数、実際の受験者数ともやや増えています。本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、各回とも昨年とあまり変わらない難度だったようです。横浜富士見丘は2月3日午後の入試を廃止、5日の入試を2科4科選択から「未来型入試」として、作文や作業主体の方式に切り替えました。21世紀型教育への対応です。昨年も各回合計の応募者数が少し減っていましたが、今年は入試回数を減らしていますから、やはり応募者は減っています。ただ、実際の受験者数は僅かですが昨年を上回っていて、複数回出願で早い日程に合格したら実際には受験しない出願が減っただけで、人気そのものは変わっていません。合格最低点は一部合格者が少ない回次で変動が見られるものの、概ね昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。

カトリックの聖ヨゼフはもともと小規模の入試の学校です。応募者はやや増えましたが、今年もあまり変わらない規模の入試でした。

川崎市内では、洗足学園が2月1日の1回は前年並みの応募者数でしたが、2日の2回と5日の3回は大きく増えています。サンデーショックの戻りと、鷗友学園が3回入試から2回入試に変更した影響です。今年は帰国入試の応募者が増えています。1〜3回はいずれも減っています。昨年の反動です。合格最低点は1月の帰国入試と3回が少し下がっています。帰国入試は、出題が少し難しかったようです。3回は応募者減少の影響で、少し入り易くなったかもしれません。1回は昨年並み、2回は合格最低点が上がっていますが、応募者は減っていますので、受験生が高学力層中心に変化したのでしょう。

カトリック校のカリタスは2月2日午後、読解・

論述と算数、さらに理科か英語選択の「新3科型入試」を新設しました。中学受験生としての標準的な算数の力があり、さらに論述力に優れ、英語か理科が得意な受験生を迎えたいという盛りだくさんの内容です。受験生はそれなりに集まったものの、既存の入試回次では各回とも応募者が減っています。盛りだくさんの「新3科型入試」で、少し敬遠ムードが起きたのかもしれませんが。昨年は応募者がやや減ったものの、実際の受験者数は増えていましたが、今年はこちらも減りました。1日午後の1回は昨年並みの合格最低点ですが、3日午前、4日午前の2・3回は下がっていて、少し入り易くなったようです。日本女子大附属は昨年について各回合計の応募者数が少し減っていますが、実際の受験者数も昨年並みで合格最低点も各回ともあまり変わらない安定した入試でした。

<男女校>

まず横浜市内から。公文国際は、昨年は入試を3回から2回に削減したり、2月1日の1教科A入試の教科を変更するなどがありましたが、今年は入試に特に変更はありません。昨年は入試回数を減らしましたから当然各回合計の応募者数は減りましたが、今年は応募者数、実際の受験者数とも昨年並み、難度面にも変化は見られなかったようで、安定した入試でした。中大附属横浜は、昨年は共学化した法政第二の影響などもあって応募者が減っていましたが、今年も2月1日の1回、2日午後の2回とも応募者はやや減っています。実際の受験者数も減っていて、一時の過熱した人氣が沈静化してきました。こうした状況を踏まえて、志望順位が高い受験生が多い1回は合格者を絞り込み、2回は増やしています。レベルアップを図ったのでしょう。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、1回はやや難化、2回は少し入り易くなったかもしれません。

山手学院は一昨年、各回とも応募者が少し減っていましたが、昨年は増加、今年も2月6日の後期以外は各回とも増えていて、実際の受験者数も同じ傾向です。後期の減少は入試を早めに終える受験生が増えたためですから、昨年に続いて人氣は上がっています。合格最低点も1日午前のA、3日午前のCは上がっていて、特にAは少し難化したようです。Cはやや難化程度でしょう。2日午後のBと後期は少し下がっていますが、

Bは倍率が上がっていることから、入り易くなったわけではなく、出題がやや難しかったのかもしれませんが。Bは受験生が減ったことから、やや入り易くなったようです。神奈川大学附属は一昨年、昨年と各回合計の応募者数が少しずつ増えていましたが、今年も傾向は変わらず、2月3日のBの男子がやや減ったものの、それ以外は男女とも増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数は2日のAと5日のCが少し増えていますが、合格最低点は各回とも昨年並みで、難度に変化はなかったようです。森村学園は、一昨年は各回合計の応募者数が少し減っていて、昨年は一昨年並み、今年も各回とも少しずつ増えていますが、しかし、実際の受験者数は、欠席率が低下して応募者数の伸びよりも大きくなっています。合格者数は昨年並みですから、2月2日の2回や4日の3回は倍率が上がっています。合格最低点も1日の1回は昨年並みですが、2・3回は上がっていて、少し難化しています。

桐蔭学園は2月4日の4次を総合思考力問題やプレゼンテーションを中心とする「アクティブラーニング入試」に切り替えました。一昨年は午後入試を新設して各回合計の応募者が増えましたが、昨年、今年と少しずつ減っています。実際の受験者数も同じ傾向です。合格最低点は、一部にやや上下のバラつきが見られ、男子中等と女子理数の2月3日の3回はやや上がっていますが、出題がやや難しかった可能性があり、難度面では大きくは変わっていないと思われます。他の回次と男子従来型、女子普通は概ね昨年並みで、こちらも安定した難度だったようです。

日吉の日本大学は昨年、グローバル対応と難関大学進学を目標とするグローバルリーダーズコース(以下GL)を新設、在来のコースはNスタンダードコース(以下NS)として、2コース制を実施、2月1日午後の入試を増設しました。今年も帰国生入試を新設し、1日午前入試で英語選択を実施しました。昨年はコース制と入試増設の効果で2コースの各回合計の応募者数は大きく増えましたが、今年も各回とも減っています。減ったのはNSで、GLはあまり変わっていません。一般的にはグローバル＝上位コースとは限りませんが、同校では上位コースとして位置付けていますから、受験生の上位コース志向でこのような結果になったのでしょう。実際の受験者数も各回合計は減っています。合格最低点は、1日午前はGL、NSとも少し

下がっていますが、出題がやや難しかったようで、全体的な難度の面ではあまり変わっていないようです。2日午後、3日午後はGLが昨年並み、NSは少し下がっています。受験生の減少を反映して、NSはやや入り易くなったようですが、GLは変化していません。5日午前はGL、NSとも下がっています。こちらは昨年も高水準過ぎたため、当たり前のラインに落ち着いたと考えた方がよいでしょう。

関東学院は、一昨年は各回合計の応募者数が前年並み、昨年は各回ともかなり減っていましたが、今年も増加、それも昨年減った男子が大きく増えています。昨年は前述の日本大学をはじめ、他校に流れた受験生が戻ってきました。一方、女子は2月1日午後のI期B以外はやや減っていて、男子の増加が女子の減少を上回っています。実際の受験者数も同傾向で、合格最低点は1日午前のI期Aは上昇、難化しました。6日の2期も合格最低点が上がっていますが、こちらはやや難化した程度でしょう。I期B・Cは昨年並みで、難度は特に変わっていないようです。系列校の関東学院六浦は帰国入試を新設しています。昨年は各回とも女子の応募者が増えて、男子は一昨年並みか、少し減っていましたが、今年も女子が減っていて、各回男女合計でも応募者数が少し減りました。実際の受験者数も減っていますが、受験者数が少ない回次でも不合格者が目立つものがあり、難度は各回とも昨年並みだったようです。

鶴見大附属は2月2日午前に適性検査型を新設、4日の総合入試では英語選択を始めました。このところ各回合計の応募者数が少しずつ減っていましたが、今年も増加に転じています。実際の受験者数も増えました。難関進学と進学の2コース制ですが、両コースとも難度自体はあまり変化がなかったようです。横浜隼人は2月2日の午後入試を廃止し、昨年英国算から1科選択+作文に変更した2日午前を2科に戻しました。昨年まで、各回合計の応募者数が増えていましたが、今年も昨年とほぼ同数です。しかし、昨年適性検査型に移行した1日午後は、応募者が増えただけでなく欠席率が下がり、他の回次も全体的に欠席率が下がったことから、実際の受験者数は合計で3割以上も増加しており、昨年までの応募者数増加の勢いが続いています。難度面ではあまり変わっていないようです。

横浜創英は、一昨年、昨年と各回合計の応募者数が

やや減っていましたが、今年は厳密には増えたものの、若干ですから昨年並みと言ってよい応募者数でした。しかし、欠席率が下がっていて、実際の受験者数は少し増えています。難度面ではあまり変化はなかったようです。系列校の横浜翠陵は2月2日午後に適性検査型を新設しました。一昨年まで各回合計の応募者数がやや減っていたのが、昨年は増加に転じ、今年もさらに増えています。増加の中心は男子で、昨年に続いて人気が上がっています。合格最低点は各回とも昨年と変わっておらず、難度面では特に変化は見られません。橘学苑は小規模な入試の学校で、今年も目立った変化はありません。

国立の横浜国大横浜は、一昨年は応募者が減少、昨年は増加と隔年で変動していて、今年は順番通り応募者が減っています。少し入り易くなったかもしれません。

次に川崎市です。昨年は法政第二が男子校から共学化して大きな話題になりました。男女別定員制で女子の定員が少なく、男子に配慮した設定でしたが、共学校志向の男子が集まって応募者が増えたことから、男女とも高倍率の厳しい入試になりました。今年も人気は続いていて、2月2・4日の1・2回男女とも応募者が増加、さらに高倍率になった激戦でした。合格最低点もすべて上昇、難化しています。桐光学園は昨年新設した英語有資格者入試を2月4日に移し、さらに他の種目でも秀でた実績がある受験生への門戸開放でT&M入試としました。3回と並行実施です。男女別学校で男子は一昨年は応募者増、昨年は少し減少し、今年も減っています。女子は一昨年からの減少傾向が続いています。ただ、2月2日の男子2回の合格最低点が少し下がったものの、1日の1回は昨年並み、3回は上がっていて、女子は1・2回が昨年並み、3回は男子同様上がっていますから、応募者が減っても目立って入り易くなったわけではなく、受験生が絞られた回次もあった入試でした。大西学園は本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

3. 横須賀方面・湘南方面

<男子校>

栄光学園は前述のように、以前は聖光学院1回との間で受験生の流出入が見られましたが、近年はこの動きが沈静化していました。しかし、昨年から今年にか

けては再びこの動きが見られるようになっていきます。今年とは逆に昨年と異なり応募者が少し増えました。対応して合格最低点も少し上がって厳しい入試でした。鎌倉学園は昨年、各回合計の応募者数が減ったものの、欠席率が大幅に低下、実際の受験者数はほとんど減りませんでした。今年も合計の応募者数、実際の受験者数とも、昨年並みと言ってよい程度の小幅の減少で、欠席率は低いまです。一昨年新設で大人気になり、昨年も人気が高かった2月1日午後の算数入試は今年も人気が高く、応募者の増加が目立ちます。4日午前・5日午前の2・3回は合格最低点がやや下がっていますが、目立って入り易くなるほどではありません。算数入試と2日午前の1回は昨年並みで、こちらも難度に変化はなかったようです。

逗子開成は、昨年は各回とも応募者数が少し減っていましたが、今年は少しずつ増えています。昨年は応募者が減っても、欠席率が下がって実際の受験者数はあまり減りませんでした。今年も同じ傾向で、応募者の増加率よりも実際の受験者数の増加率の方が高くなっています。2月3日の2回の合格最低点が少し下がっていますが、倍率を考えると入り易くなったとは考えられず、少し得点しにくい出題が増えたのでしょうか。1日の1次、5日の3次も昨年とあまり変わらず、難度は変わっていないようです。藤嶺藤沢は、昨年は1日午後に入試を新設、午後入試を2回とし、5日の5回を4科融合問題としましたが、特に午後入試が2回になったため、各回合計の応募者数は大きく増えました。今年はその反動で各回とも減っています。合格最低点は2日午後の3回、3日の4回、そして5回がやや下がっていて、少し入り易くなっているようです。他の回次は昨年並みで難度は変化していません。

<女子校>

湘南白百合は、昨年は一般入試、帰国入試とも応募者が増えましたが、今年是一般入試の応募者が減っています。以前はフェリスの定番の併願校でしたが、最近では受験生の併願校選びが変わってきている影響かもしれません。実際の受験者数も減っていて、合格最低点も下がり、少し入り易くなったかもしれません。鎌倉女学院もフェリスをはじめとする神奈川女子御三家の併願校ですが、こちらは一昨年は2月2日の1次、4日の2次とも応募者減、昨年は増加に転じ、今年も

増えて人気が上がっています。実際の受験者数も対応して増えていて、1次は合格最低点が上がって少し難化したようです。2次は昨年並みで、こちらは難度に変化は見られませんでした。清泉女学院は2月1日午後に入試を新設、いよいよ午後入試に踏み切りました。この入試は2科ですが、グローバル入試として英語選択も可能です。これを歓迎する受験生が多く、各回合計の応募者数は一挙に1.8倍に増加しています。実際の受験者数は既存の回次の定員削減と欠席率低下の影響で、合計で2倍以上となり、一気に倍率が上昇、厳しい入試になっています。合格最低点は1日午前がやや上がり、3日午前の3期はやや下がっていますが、例年の変動の範囲でしょう。新設の午後入試も得点率は既存の回次とあまり変わらず、難度面ではあまり変化が見られませんでした。

聖園女学院は、21世紀型教育対応として2月3日午後に総合力問題による総合力入試を新設しました。一昨年、昨年と各回合計の応募者数が少しずつ減っていましたが、今年は既存の入試回次で昨年並みの応募者数、新設の総合力入試の分だけ応募者化数が増えました。実際の受験者数も同じ傾向で、一部合格者が少ない回次の合格最低点は昨年との差異が目立つものがありますが、概ね昨年並みで、難度に特に変化は見られません。

鎌倉女子大は特進・進学コースの2コース募集です。2月2日午後に適性検査型入試を新設しました。昨年は各回とも少しずつ応募者が減っていましたが、今年は各回合計で昨年並み、実際の受験者数は昨年を少々上回っています。各回次が比較的小規模ですので、合格最低点は昨年との差異が目立つものもありますが、概ね特進・進学コース各回とも昨年とあまり変わらない難度でした。北鎌倉女子、聖和学院、緑ヶ丘女子は、例えば聖和学院が表現力総合型入試や、面接をプレゼンテーション方式とした入試を実施するなどの変更を行った学校もありましたが、今年も小規模な入試でした。

<男女校>

慶應湘南藤沢は1次合格者に2次の試験を実施する2段階選抜です。昨年に続いて今年も応募者は少し増えていて、高い人気です。増えているのは一般の女子と帰国の男女で、一般の男子は減っています。一般の

男子は一昨年は減少、昨年は増加、今年は減って、隔年現象的な変化ですが、普通部や中等部もこの3年は同じような動きで、慶應系の男子の人気変動が分かります。2段階選抜ですから、難度面は昨年並みでしょう。応募者が昨年、今年と増え続けている女子はやや上がったかもしれません。日大藤沢は昨年、安定していた応募者数が増加していましたが、今年は2月1・4日の1・2回男女合計で少し減っています。男子が減少していて、昨年は男子が増加の中心でしたから、昨年の反動での減少のようです。難度の面ではあまり変化はなかったようです。

湘南学園は2013年に人気大爆発で、応募者数が大きく増加、一昨年まではその反動で少しずつ減っていましたが、昨年は一昨年並みで応募者の減少が止まったかに見えましたが、今年は再び減っています。2月2日のB入試と6日のD入試の男子が減少の中心で、男子校に受験生が流れているのかもしれませんが。合格最低点は、3日のC入試の男子とD入試の男女の上昇が目立って、少し難化しているようですから、応募者が少々減っても受験生が絞られただけ、ということでしょう。それ以外は昨年並みで、難度に特に変化は見られません。

横須賀学院は、各日程で実施していた英語有資格者入試(一定の英語力を条件として、日本語作文や面接で評価)を2月2日午後集約しました。同校によると、各日程で2科や4科の入試と並行実施するほど受験生がいない、ということです。グローバル化対応で英語入試の新設や増設が花盛りですが、実際には多くの学校で、わずかな受験者数しかおらず、一般的になるにはまだまだ時間が必要でしょう。一昨年は各回合計の応募者が増加、昨年は減少、今年はやや増加しています。実際の受験者数は応募者の増加率よりもかなり大きい増加で、欠席率が低下しています。実際、今年の中学受験では欠席率の低下が目立っていて、それを踏まえると、今年の同校は応募者増加と位置付けてもよさそうです。一部の合格者が少ない回次を除いて、合格最低点は概ね昨年並みで、難度は各回ともあまり変わっていないようです。アレセア湘南は小規模な入試の学校です。今年は2月2日に英語入試を新設していますが、各回合計の応募者は少し減って、今年も小規模入試のままでした。

国立の横浜国大鎌倉は2月2・3日の2日間入試で

す。昨年は応募者数が一昨年並みでしたが今年はやや増えています。2013年から入試日程を動かして公立一貫校と併願できなくなっから、応募者が大きく減って、今年も小規模な入試です。難度は特に変わっていないでしょう。

4. 県央～県西方面

<女子校>

聖セシリアは昨年、2月4日の3次を3日午後午前倒しましたが、今年4日にB型として算数か英語と、読解表現を合わせた入試を新設しました。21世紀型教育対応です。昨年は各回合計の応募者数がやや減っていましたが、今年厳密には微減ではあるものの、昨年並みと言ってよい水準です。実際の受験者数は少し減っていますが、合格最低点は各回とも昨年並みで、難度に特に変化は見られません。相模女子大は特に入試に変更はありません。昨年は2月1日の入試の応募者が増えましたが、他の回は減っていました。今年各回でやや上下が見られるものの合計するとほとんど昨年並みの応募者数でした。欠席率が低下したため、実際の受験者数は少し増えています。難度面では各回とも昨年とあまり変わっていないようです。

地域は離れますが函嶺白百合は今年も小規模な入試でした。

<男女校>

東海大相模は長い間2回入試を続けていましたが、一昨年2月3日に入試を新設、これが人気で各回合計の応募者数が増えましたが、昨年は少し減っていました。今年昨年に続く減少です。通学エリアが重なる町田の日大第三などに流れた受験生もいたようです。全体的に倍率が低下していても各回とも少し入り易くなったかもしれません。自修館は昨年まで各回合計の応募者数が増えていましたが、人気は反転したようで、今年各回とも少しずつ減っています。実際の受験者数も減っていて、2月2日午後や3日午前入試は倍率が少し下がっていますが、各回とも昨年とあまり変わらない難度だったようです。

地域は離れますが、相洋は回次によって応募者数の増減に違いが見られますが、合計では少し増えていてほぼ昨年並みで、実際の受験者数は微増といったところ。2月1日午前の4科の合格最低点が少し上がっていますが、出題がやや得点しやすかったようで、難度に目立った動きはありません。他の回も昨年並みの合格最低点で安定しています。

※本概況は、2017年2月15日までに回答のあった学校アンケートに基づき作成しています。2月15日以降変更等ある場合がありますので、ご了承ください。